

1 開催の趣旨

(1) 目的

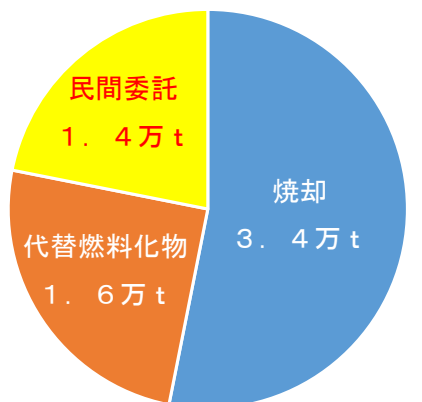
下水汚泥の肥料化施設導入に当たっては、施設の整備や運営経費、肥料の安定的な利用に加え、市町村との共同処理など様々な検討が必要となることから、関係する有識者が一堂に会し、それぞれの分野からいただいた意見をとりまとめることが効果的である。

そのため、下水汚泥肥料化の検討推進に向けて、学識経験者や流域自治体、庁内関係課を構成員とする検討会を開催するもの。

(2) 経緯等

宮城県流域下水道事業において発生する下水汚泥(令和5年度実績年間約6.4万トン)のうち、約3.4万トンは焼却した上でセメント材料として、約1.6万トンは石炭の代替燃料化物として、残る約1.4万トンは民間へ委託しコンポスト等としてリサイクルしている。

この民間委託分の処理費用削減を求められていることや、国の肥料活用の拡大に関する考え方が示されたことなどから、民間委託している東部下水道事務所管内の3浄化センターを対象として、令和4年度より下水汚泥の肥料利用検討を進めている。



県流域下水道汚泥処理6.4万tの内訳

2 第1回 検討会の概要

- ・日時: 令和7年2月14日(金)午後1時30分から午後4時まで
- ・場所: 宮城県庁行政庁舎15F 企業局会議室
- ・出席者: 学識経験者、流域自治体、庁内関係課(全6名)
- ・内容: 事業の背景と現状について

専門	氏名	所属
経営	田邊 信之	宮城大学 客員教授
農業	渡部 徹	山形大学農学部教授
下水	大村 達夫	東北大学 名誉教授
流域	梶原 正義	石巻市建設部長
行政	關口 道	農政部みやぎ米推進課長
行政	柴田 正義	土木部都市環境課長

3 今後のスケジュール(案)

導入可能性の整理に向けて、検討会を開催予定。

- ・令和7年5月頃 第2回検討会 (事業手法や肥料利用、市町村共同処理等)
- ・令和7年9月頃 第3回検討会 (意見のとりまとめ)
- ・その他、汚泥肥料利用に向けたシンポジウムを予定